

しせき  
史跡 曾根崎川跡  
そねざきがわあと

(所在地) 北区曾根崎新地一丁目五



(碑文 左側) 大阪市立博物館蔵  
(1716~1735)  
(地図)

曾根崎川跡  
平成十四年作成

【碑文 右側】 曾根崎川跡

曾根崎川はかつて堂島川から分かれてここから少し南寄りのところを東西に流れ 俗に蜷川(しじみ)ともいわれていた 元禄年間に河村瑞軒がこの川を改修してから堂島新地・曾根崎新地が開かれた

そのころの新地の茶屋は蔵屋敷や商家の人々のつどうところとして親しまれこのあたりからは北野や中津の田畑越しに北摂の山々が遠望でき夏の夕べには涼み舟がこの川からこぎ出たという近松門在衛門の作品には堂島新地・曾根崎新地を舞台にしたものがありなかでも「心中天の網島」(二七二〇の作)の一節名残の橋づくしには当時曾根崎川にかけられていた難波小橋・蜷橋・桜橋・緑橋・梅田橋の名がたくみにとりいれられている

しかしこの曾根崎川も明治四十二年(一九〇九)の北の大火後に上流部ついで大正十三年(一九二四)には下流部が埋立てられ 昭和二十年(一九四五)の戦災でこのあたり一帯は焼失したが 今日では北の新地としてにぎわいをとりもどしている

曾根崎川(蜷川)は西側は福島川と

も呼ばれた。明治四二年(一九〇九)

の「北の大火」は、現在の下福島公園

あたりまで焼きつくし、五百羅漢らかんで有名な妙徳寺みょうとくじも被災した。この大火で

発生した多くのがれきで曾根崎川上流が埋め立てられ、下流部も大正末までに埋め立てられた。この碑の隣に

「蜷橋の碑」がある。

現在のメリヤス会館・関電病院の北側の道路が、もとの曾根崎川の流れである。



『増補大坂図』(1765)より